

解説



国際公会計基準審議会 (IPSASB)

「サステナビリティ・プログラム情報の報告」の解説

公会計委員会政府会計専門委員会専門委員長
公認会計士

たかはし ひろのぶ

高橋 宏延

公会計委員会政府会計専門委員会副専門委員長
公認会計士

なか ゆかこ

仲 友佳子

本稿では、2023年5月に国際公会計基準審議会 (IPSASB) より公表された最終文書「サステナビリティ・プログラム情報の報告—RPG第1号及び第3号：強制力のないガイダンスの追加」(以下「最終文書」という。)について解説する。

1 本プロジェクトの経緯

IPSASBには、各国の関係者からサステナビリティ関連の報告ニーズへの対処を求める声が近年多く寄せられている。2022年3月の会議で、範囲を限定したプロジェクトである「サステナビリティ・プログラム情報の報告」を急ぎ実施し、当該要望に対処することを決定した。

このプロジェクトは、次の2点を目標としている。

- 公的部門の主体によるサステナビリティ関連の報告に、IPSASBが公表済みの推奨実務ガイドライン (RPG) が活用できることを周知する。
- 各国におけるRPGの適用を推進する。

IPSASBは、2022年9月の会議で公開草案第83号「サステナビリティ・プログラム情報の報告—RPG第1号及び第3号：強制力のないガイダンスの追加」¹(以下「ED第83号」という。)を承認し、同年11月3日付けで公表した。ED第83号のコメント期限は、公表から2か月後の2023年1月16日であった。

その後、2023年3月の会議で、ED第83号に寄せられたコメントへの対応を議論し、最終文書を全員一致で承認した。

2 サステナビリティCPと最終文書の関係

IPSASBは2022年5月にCP「公的部門のサステナビリティ報告の推進」を公表した。当該CPは、国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) が公表した2つのサステナビリティ開示に関する公開草案を公的部門用に修正することを提案している。当該CPに関係者から寄せられたコメントの検討は、2023年3月の会議から開始されており、本稿執筆時点では、ISSBが2023年6月末に公表予定のIFRS-S2号「気候関連開示」を、公的部門用に修正するプロジェクトを立ち上げる方向で議論が進んでいる。

ED第83号は、当該CPの検討結果にかかわらず、公表済みのRPGがサステナビリティ関連の報告に現時点でも活用できることを示す内容である。

3 最終文書の構成とRPGの概説

最終文書は、推奨実務ガイドライン第1号「主体の財政の長期サステナビリティ報告」(RPG第1号)及び第3号「サービス業績

情報の報告」(RPG第3号)に、強制力のないガイダンスを追加することを提案している。具体的には、RPG第1号に結論の根拠と適用ガイダンス、RPG第3号に結論の根拠、適用ガイダンス、設例を加える内容となっている。

	RPG第1号に追加	RPG第3号に追加
結論の根拠	BC37-BC42	BC44-BC50
適用ガイダンス	IG1-IG3	IG1-IG4
設例	—	IE4-IE8(4つの設例)

IPSASBの公表文書において、RPGは、IPSASが対象とする一般目的財務諸表を補足する、一般目的財務報告書を作成するためのガイダンスとして位置づけられている。IPSASに準拠して財務諸表を作成している場合でも、RPGの適用は任意である。財務諸表よりも幅広く、非財務情報や将来予測情報も含み得る内容となっている。

RPGはこれまでに3本公表されており、RPG第1号は、主体の将来の一定期間にわたる財政的なサステナビリティに関する情報を提供することを目的としている。例えば、現行の政策が継続される前提で将来(10年後等)のキャッシュ・インフローとアウトフローの予想を示す内容である。RPG第2号「財務諸表の討議と分析」は、一般目的財務諸表で表示される財政状態、財務業績、キャッシュ・フローの分析にどのような内容を含めるべきかを示している。RPG第3号は、主体が提供するサービス、その業績目標、達成度等をどのように報告すべきかを示している。

最終文書は、これらの3本のRPGのうち、特にRPG第1号と第3号の2本を改訂している。

4 RPG第1号へのガイダンス追加

RPG第1号には次の3つの適用ガイダンスを追加する。適用ガイダンスはQ&Aの形式となっている。

設問	回答要旨
RPG第1号は、主体の全体的な財務に対するサステナビリティ・プログラムの影響に関する情報の報告に適用されるのか。	そのとおり。
サステナビリティ・プログラムが長期財政サステナビリティの側面に及ぼす影響には、どのように対処すべきか。	サステナビリティ・プログラムが、将来のキャッシュ・インフローとアウトフローを通じて長期財政サステナビリティに関するサー

ビス、収益、負債の3つの側面に及ぼし得る影響をモデル化する。また、現在の政策に関する仮定、及び将来の人口動態や経済状況に関する仮定に基づいて、全体的な予測に含める必要がある。

サステナビリティ・プログラムの影響に関する報告には、どの原則を適用すべきか。	政策、人口統計、経済の仮定に関するものを含む、RPG第1号のすべてのガイダンスを適用する。感応度分析を使用する場合もある。
--	---

5 RPG第3号へのガイダンス追加

RPG第3号には次の2つの適用ガイダンスを追加する。適用ガイダンスはQ&Aの形式となっている。

設問	回答要旨
RPG第3号は、サステナビリティ・プログラムに関する情報の報告に適用されるのか。	そのとおり。
RPG第3号は、個別のサステナビリティ・プログラムにどのように適用するのか。	意思決定者は、サステナビリティ・プログラムに関連するガバナンス、戦略、及びリスクの評価を希望する場合がある。RPG第3号は、アカウンタビリティを確保し、意思決定目的に有用な情報を提供するために重要な領域の透明性を支える。4つの設例で、原則の適用方法を示す。

追加された4つの設例は、現行のRPG第3号の設例(IE3)で示している予防接種の例と同様の構成で、サステナビリティ・プログラムに関する情報を具体的に示す内容となっている。プログラムごとに約1頁を使い、プログラムの説明と、業績指標(インプット指標、アウトプット指標、アウトカム指標、効率性の分析、有効性の分析)が文章で記載されている。以下は、設例別のインプット、アウトプット、アウトカムを要約した表である。

設例の内容	インプット、アウトプット、アウトカム
1 グリーン債を財源とする植林プログラム	インプット : 1本当たりの植林コスト アウトプット: 植林した木の本数 アウトカム : 吸収したCO ₂ の総量

2	炭素税を財源とする電気自動車(EV)充電ステーション設置のプログラム	インプット :EV充電ステーションごとの設置コスト アウトプット:設置したEV充電ステーションの数 アウトカム :ゼロ・エミッション車の市場シェア
3	気候変動による洪水防止のために住宅の庭にレイン・ガーデンを設置するための資金提供プログラムの資金提供プログラム	インプット :レイン・ガーデンの設置に資金提供した額 アウトプット:レイン・ガーデンの設置数 アウトカム :洪水事例の減少数
4	税額控除によりエネルギー効率の高い改修を促進するプログラム	インプット :税額控除の総額 アウトプット:エネルギー効率の高い改修の完了数 アウトカム :エネルギー消費の減少

6 ED第83号からの変更点

ED第83号と最終文書には大きな相違点はなく、変更は校正的な内容である。RPG第1号と第3号のそれぞれの「結論の根拠」に、ED第83号に寄せられたコメントに対応した旨を説明する文章を追加している。RPG第3号の4つの設例も、ED第83号当時の記述よりも理解しやすいように修正されているが、項目自体

の追加・削除等はない。

7 我が国の公会計

日本の国及び地方自治体では、IPSASやRPGは直接採用されておらず、RPG第1号及び第3号に直接相当する規定は定められていない。また、幅広いサステナビリティについての情報提供は今後の課題である。

なお、我が国の「国の財務書類」における財務報告上の論点については、公会計委員会研究報告第28号「国の財務書類の課題～国際公会計基準(IPSAS)との比較～」²44頁以降を参照されたい。

<注>

- 1 ED第83号の詳細については、本誌2023年1月号の解説記事を参照されたい。
- 2 公会計委員会研究報告第28号「国の財務書類の課題～国際公会計基準(IPSAS)との比較～」(2022年2月17日 日本公認会計士協会) (https://jicpa.or.jp/specialized_field/20220318ecs.html)